

日中学院校友会主催第4回中国旅行

「ゆったり西安5日間」(3月15日~19日)

長谷川 良一

昨年、上海・杭州・紹興の旅を企画したとき、校友会理事会の理事の中では西安・延安の旅の事も候補にあがっていた。西安は桂林と共に観光を主たる収入源としている都市であり、このような都市では「向銭看」の傾向が顕著であり、往々にして不愉快なことにぶつかることが多いものであるし、現にその前年西安を訪れた棗田副会長の話でもそのようなことがあったというので、それを敬遠して最終的には「江南の旅」に決めたのであるが、果たしてその旅行中に団員の中から、なぜ西安にしなかったのかという声が出た。こういうわけで、今年の旅行は問題なく西安行きということに決まった。西安・延安の企画は魅力的であったが、4泊5日の旅ではどちらも中途半端になる恐れがある、同じような考えから、往復北京で宿泊すれば西安滞在の時間が少なくなるので、往復とも北京を素通りして、出来るだけ多くの時間を西安に割くことにした。私はこれまでに66年5月上旬・83年8月下旬・86年5月中旬と3回訪れたことがあるが、中国の変化は激しいので、その経験は役に立たない。ある程度は止むを得ないにしても、見学はそこそこで、土産物店に案内することが熱心というのは極力避けてもらうことにして、すべてのスケジュールを交気ワールドの松田社長にお任せすることにした。昨年の「江南の旅」では、スケジュールを発表してから1週間で募集を締め切ったので、参加者は24名、35名定員で料金を設定していた交気ワールドには多大の迷惑をかけた。そこでその経験をふまえて今回はほぼ半年前に企画を公表したので、今回は50数名が参加して理事会理事一同もほっとした。宿は五つ星の長安城堡大飯店、4泊とも同じホテルで移動がなかったことは、おおむね好評だったようである。

西安滞在第1日目の午前には碑林博物館・八路軍西安办事处・西門城壁。午後は清真大寺・鼓樓・鐘樓・青龍寺・大雁塔。第2日目の午前には清華池・秦兵馬俑坑。午後は土産物店・歴史博物館。夜は自由参加の講演会。第3日目は茂陵・楊貴妃墓・乾陵・窟洞・咸陽博物館の見学が主な日程であったが、その中で特記したいことが幾つかあった。たまたま昨年の「江南の旅」に参加した佐藤達雄さんが西安交通大学に留学していたので、西安到着の夜レクチャーをお願いしたが、周到的準備をして西安の詳細な歴史年表を用意してくださり、一人一人に西安の地図まで下さったので、そのお話と共に西安旅行の素晴らしい導入部となった。佐藤さんはまた、お茶の購入・判子の作成など団員のお土産のためにいろいろ尽力してくださった。もし佐藤さんがいなかったなら、おそらく団員の皆さんもこのようなお買い得のお土産を手に入れることは出来なかったことであろう、団員の皆さんを代表して佐藤さんに心からお礼を申し上げる。

66年に見学した八路軍办事处はまだ奥まった路地の中にあつて、周囲のどれだけの建物から其処への出入りを監視していたかがわかるようになっていて、当時の国民党地区から延安にむかう若者達の緊迫度がひしひしと感じとられたが、今では周囲がすっかり広い道路になっていて、建物そのものは昔のままではあるが、見学の意義はほとんど無くなってしまっていた。

清真大寺のアホンの馬良驥先生とは83年の訪問で面識があつたので、若し可能ならば再会をお願いしたいと旅行社を通じてあらかじめ申し入れておいたが、団が訪れたときには午後の礼拝の最中であつた。普通、イスラム教では礼拝の様子は幕を下ろし異教徒にはめ

ったに見せないものであり、私もテレビ以外では見たことはなかったが、その時、幕を下ろさず異教徒の我々にも遠くから見学させてくれたのは、アホンのわたし達団員への好意であったのだろう。礼拝後の14年ぶりのアホンとの再会は感激一入であった。

棗田副会長の提案で西安第2日目の夜には自由参加で、ウニタ書舗の遠藤忠夫さんの50数年来の友人であり、現在西北建築設計院顧問をしておられる安中義先生のお話を聞くことになった。始めは座談会形式で安先生に中国語混じりの日本語でお話し頂き、先生がうまく話せないときには私もお手伝をするということであったが、当日は西安の古建築と西安の改革開放前と後との建築事情についての詳細な原稿を用意され、私はその通訳をするという羽目になってしまった。建築の専門用語はてこずったが、先生が東北人で言葉がわかりやすく、そのうえ私のために短く区切って話して下さったので、どうやら大過なく大任を果たすことが出来たのは幸いだった。乾陵のそばの窑洞の見学は短時間だったが、団員の興味をそそったようである。西安の旅行社では西安の全日程をビデオに撮影してく

れ、担当者に品質を保証するかと念を押ししたところ、太鼓判を押すということだったので、旅行の良い思い出にと団員の皆さんに購入を勧めたが、帰国後見てみると画像がそれほど鮮明ではなくがっかりした、勧めた皆さんには申し訳なく思っている。食事の点では、期待していた餃子宴はがっかりだったし、ホテルの朝食の日本食もいただけなかった。乾陵見学の前に昼食で食べたピン（餅）と酢のはいった麺、西安の最後の夜に食べた広州風シヤブシヤブが一番印象に残っているが、皆さんは如何であろうか？ いずれにしても大過なく無事に旅行を終えることが出来たのは、いつにかかって団員の皆さんの御協力の賜であり、校友会理事一同厚くお礼を申し上げる。

最後に今年の旅行計画の縁の下の力持ちになってくださった校友会の事務局の皆さん、旅行中ずっとお世話くださった石黒さん、今年も私たちの希望を最大限度に聞き入れて格安の旅行をお世話くださった交気ワールドの松田さん、それに添乗員の原田さんに団員一同を代表して厚くお礼申し上げます。

(1997・4・4)



秦始皇帝兵馬備坑博物館 (97.3.17)